

中の女中十二人、典侍四人、内侍四人、命婦四人なり、大御乳の人、おさしは外也。御陪膳給ふあたり御番の典侍、御手長内侍、役送命婦なり、いづれもはつき袴、大すべらかし、びんを出してつとめらる、女御は上段の御次に座したまふ、中宮よりは、上つかたと同じ、そのゆゑにめしつかはる、人も其時は違あり、びんを出すといふ事、さしひんと云、前がみをわけてほそく出し下るなり。○中略

夜になりて、一くし串ざし指ら鹽調のさひ御はし、二からもの、三かずかず、右三ツ肴にて一獻、一あさ蘿荀、藻物あさくき、高煙、二やき蘿荀、藻物かちん事也の事也、右二獻、一きじやき鹽燒豆、右三獻、此時は御くはへ、右のとほり、女中へもやきかちん、きじやきにて、右御こんのたびたび御とほりをたまふ、こん數もおなじ、くしさしは、鹽鯛をさいにはやしくしにさし、はそき紙にあげまきのごとくちみをかくる也、からものは大こん三つほどにして葉をのこし、くきつけ物なり、いづれも小かくにのる、かすかすは數の子也、かはらけにもる、あさあさも同じ、やきかちんは小角にのる、きじやきは御すゑものにもりて、くこんをかけらる、きじやきはとうふの玄ほやき也、御引かへ、御三つざかな右に同じ、一こん、ぼうぞう餅又、おきものあり、二こん、ひれのこなんたひのひれ、高盛、三ごん、御くはへあり、いづれもとその酒を用ひらる、此時天盃天酌中略をたまふ、女中はつきほかますべらかしていなり、大御乳の人も同じ、おさしの人はすべらかし玄、らげよはり也、御さしには天盃はたまふ、天酌はたまはらず、右の御獻、女中の獻ともに、内膳司より調進す。中略内々小番の公卿雲客には、常の御所にて天盃天酌三獻中略をたまふ、大中納言、宰相、一二三位等の公卿へはくはへをたまふ、殿上人にはひけの御くはへなし、後に末廣をたまふ、外様の公卿殿上人にはたまはず、元三の朝ごとに内内小番の公卿殿上人とも、元三七日十五日の中、葩ふくさ御こん、きじやき、御てうしひさげを、小番所にたまふ。中略中宮又女御、緋のはかまはつきめさる、典侍、内侍、命婦も、黒紅梅、赤紅梅、も、紅梅はつき、緋の袴ていなり、又折々はおり